

いま自分たちにできること

氏名 : 赤塚 徹

学校名 : 階上町立石鉢小学校

担当教科 : 全科

実践教科 : 学級活動(2時間)、道徳(1時間)

時間数 : 3時間

対象学年 : 5学年

人数 : 40名

【実施概要】

【1】題材のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

フィリピンのストリートチルドレンを通して自分たちに与えられた「学ぶ権利」について考えることができる。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	フィリピンの様子や人々の生活に関心を持ち知ろうとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	フィリピンの人々と自分を比べて考えている。
	(ウ) 技能	自分の考えや思いを発表したり文章に書いたりして表現している。
	(エ) 知識・理解	自分たちには「学ぶ権利」が与えられていることを理解している。
【3】 主題設定の 理由	<p>(1) ねらいとする道徳的価値について</p> <p>児童達には様々な権利が保障されている。学校に来て勉強するというのも「学ぶ権利」として保障されているものであるが、実際にはそのように感じておらず、むしろ義務だと思っているのが実態である。本学年の児童達においても、学校は「行かなければいけないところ」であり勉強は「やらなければならないこと」と捉えている傾向が強く感じられる。自らの「学ぶ権利」を取り戻すために必死に努力しているドロップインセンター（フィリピンのストリートチルドレン支援施設）の子ども達の様子について知ること、これまで当たり前のことと感じていた学校に来ることや学習に取り組むことが、自分達に与えられた「学ぶ権利」であるということに気づかせたい。夢や希望をもち、その実現に向けて、いまの自分にできることを頑張ろうとする力強さを育てていきたい。</p> <p>(2) 児童の実態</p> <p>本学年の児童達の中には、学習を始めとする学校での生活になかなか前向きな気持ちで取り組むことができない児童が多く見られる。その背景には様々な要因があると思われるが、共通して根底にあるのは何かしらの不安やストレスを抱えているということである。学校への復学を目指して勉強に取り組んでいるドロップインセンターの子ども達や、そこで子ども</p>	

達を支えている人々の思いに触れることで、本学年の児童達にもより前向きに生活していこうとする気持ちをもってほしいと願っている。

また、これまで本学年の児童達は、外国語活動において世界の主要な国々の挨拶や習慣について触れてはいるものの、世界の国々でどのような問題が起こっているかということに関心を向ける機会は少なかった。今回の学習を機会に世界のことに目を向けようとする国際的な視野や、世界で起こっている様々な問題を身近なことと感じ、積極的に考えようとする姿勢を育てていきたい。

(3) 資料について

国際理解や国際協力の基礎となるのは、他国の人々に対する共感的理解であると捉え本題材を設定した。自分達と年齢の近い子ども達に関する問題を取り上げることで、より自分と重ね合わせて共感的に考えることができる。ドロップインセンターの子ども達の立場や気持ちを理解した上で自分達にできることを考えさせる。それによって子ども達は、どこか遠くで起こっている問題として捉えるのではなく、より身近な問題として捉え真剣に考えることができるものと考えている。

【4】 展開計画（全3時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	・ フィリピンについて知り、フィリピンの小学生に質問することを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィリピンの位置や日本との関わりなどについて、だいたいの様子をとらえる。 ・ グループごとに考えた質問をタブレットに録画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界地図 ・ タブレット
2	・ フィリピンの学校や小学生の様子について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問の動画に答えているフィリピンの小学生の様子をビデオで確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビデオ映像

		<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの学校の様子や自分たちと同じ小学生の様子について知る。 	
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ストリートチルドレンを通して自分達に与えられた「学ぶ権利」について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果をもとに自分達の勉強に対する意識を確かめる。 ・復学するために頑張っているフィリピンのストリートチルドレンについて知る。 ・これからの自分について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 ・アイビーさんのインタビュー映像 ・ワークシート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	1 勉強に関するアンケートの結果を見る。	<p>《アンケート結果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強することが楽しい 21人 ・たまにつらい 13人 ・つらいと思う 6人 ・宿題あったほうがいい 21人 ・もっと少ないほうがいい 13人 ・ないほうがいい 6人 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果
	2 勉強に対する自分の気持ちを振り返る。	<p>○親や先生に勉強するように言われなかったとしたら、どのくらい勉強するかを「毎日する」「半分くらい」「ほとんどしない」の3つの立場で考えさせる。</p> <p>○自分達の意識が「勉強しないといけない」「勉強したい」のどちらなのか考えさせ挙手をさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・ネームプレート

<p>展開 (25分)</p>	<p>3 フィリピンの入学率と卒業率が違うのはなぜかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の仕事を手伝っているから。 ・学校に通うお金がないから。 <p>4 ストリートチルドレンについて理解する。</p> <p>5 復学を目指して勉強しているアイビーさんの資料映像を見せる。</p> <p>6 アイビーさんが学校に戻ろうとしている理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢を叶えるためには勉強することが大切だと気付いたから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>アイビーさんが学校に戻ろうとしているのはどうしてか、アイビーさんの立場になって考えよう。</p> </div>	<p>○入学率 96% 卒業率 68%</p> <p>○貧困などの理由から路上で生活したり収入を得たりしている子ども達であることを捉えさせる。</p> <p>○苦しい境遇であることだけでなく、教師になるという夢をもっていることを理解させる。</p> <p>○中学1年生の年齢でありながら、小学校の3年生に復学しようとしていることを理解させる。</p> <p>○アイビーさんの立場になって考えさせるようにする。</p> <p>○アイビーさんは「勉強しないといけない」と「勉強したい」のどちらの気持ちなのかを考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料①： フィリピンの入学率と卒業率 ・資料②： ストリートチルドレンの写真 ・資料③： アイビーさんのインタビュー映像
<p>まとめ (10分)</p>	<p>7 これからの自分について考える。</p> <p>8 教師の話を聴く。</p>	<p>○アイビーさんと自分を比べて考えさせワークシートに書かせる。</p> <p>○何人かの児童に発表させる。</p> <p>○「学ぶ権利」について話して聴かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

【授業実践の様子】



勉強をする理由が分からない。

国語は日本語がしゃべれればいいし
数学は足し算とひき算ができればいいし
社会はニュースを見てればいいし
理科は使うときがない



アンケートの結果をもとに、自分たちが勉強することに対してどのように感じているのかを確かめる。

もし、誰にも「勉強しなさい」と言われなかったら、1週間に何日自分から進んで勉強するか考え、ホワイトボードにネームプレートを貼る。



入学率と卒業率の違いについて知らせ、卒業する前に学校に通うことを止めてしまう子どもの存在に気付かせる。



また、そのような子どもたちの中には、ストリートチルドレンになっている子がいることを知る。

ストリートチルドレンを復学させる取り組みをしているドロップインセンターの様子を知る。



医者になるという夢を叶えようとしているアイビーさんインタビューの動画を見る。

復学を目指して頑張っているアイビーさんのことを知って、「学ぶこと」に対する自分の気持ちがどのように変わったかを考え発表する。



自分たちに与えられた「学ぶ権利」というものについて考えてみて、これからどのようにしていきたいと思ったかをワークシートに書く。

【6】本時の振り返り

「学ぶ権利」について小学生が理解するためには、どのような言葉に置き換えるのが良いか。また、自分自身の普通の生活を振り返らせ、自分達が勉強する環境について感謝の気持ちをもたせるために、復学を目指すストリートチルドレンの問題を身近な問題として捉えさせることを強く意識して授業作りをしてきた。

【教材について】

本時では、ドロップインセンターでインタビューしてきた少女アイビーさんのインタビュー映像を見せる場面がある。フィリピンのストリートチルドレンが、自分達と変わらない普通の女の子であることや、どのような思いで復学を目指しているかを、映像を通して実感的に理解する場面であるが、音声聞き取りにくく、通訳している現地のNPOスタッフの話が子ども達に伝わらなかった。映像を見せた後で説明し、子ども達に話の内容を伝える方法をとったが、映像とずれてしまったことで素材の臨場感が下がり、結果的に映像の効果を最大限に引き出すことができなかった。字幕をつけるなどして、インタビューの内容が映像と同時に伝わるようにすることが必要だった。

また、今回の授業では、子ども達の意識が「かわいそう」という方向に向いてしまわないように、ストリートチルドレンを取り巻く様々な問題には深く切り込まなかった。しかし、「学ぶ権利」について深く考えさせるためには避けて通れない問題であり、本時の前に見せるフィリピンの姿の一つとしてストリートチルドレンを取り巻く環境には、様々な問題があることを子ども達に理解させておくべきだったと考えている。

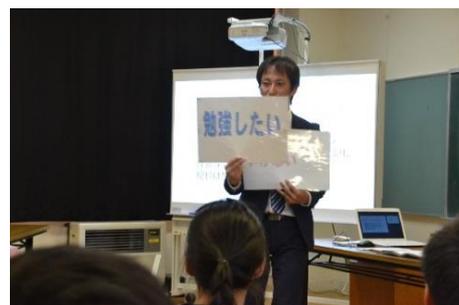


【授業の展開について】

導入の段階では子ども達のアンケート結果から、自分達が「学ぶ」ということに対してどのような意識をもっているかを確認することから始めた。また、誰にも勉強するよう言われぬ環境の中で、どのくらい自分から進んで学習に取り組むかを、ホワイトボードにネームプレートを貼ることで意思表示させた。これらの活動により自分自身について振り返ることで、本時で取り上げる問題がフィリピンのストリートチルドレンだけの問題ではなく、自分たちにも関わりのある問題として捉えさせることができた。

次の段階では、ストリートチルドレンの存在やドロップインセンターの取り組みを知らせ、自らの「学ぶ権利」を行使するために努力している様子に気付かせるようにした。前述のように、資料映像の効果は十分には引き出せなかったが、ワークシートに書かれた子どもたちの感想を見ると、「夢を叶えるために」「自分の将来のために」といった表現で、アイビーさん達が自分に与えられた「学ぶ権利」を取り戻そうとしている姿に気付いている様子が見られた。

「学ぶ権利」について小学生が考える際に、どのような言葉で投げかけるのがよいのかを考えた結果、今回の授業では「勉強したい」「勉強しないといけない」という2つの言葉を用いた。これらの2つの言葉をカードにしたものをホワイトボードに掲示するときに、子どもたちの反応を確認しながら強く意識している言葉ほど高い位置に掲示し、意識が薄いほど低い位置に掲示するようにした。このようにして、2つのカードの高さを相対的に変えて掲示することで、子どもたちの意識を可視化することができた。



【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

○アイビーさんは、なぜ学校にもどろうとしていると思いますか？
アイビーさんの立場になって考えてみよう。

自分のしょうの夢をかなえるため、い
る人も開き社会に出て自分になる
人になるため。

○アイビーさんのことを知ってこれから自分はどのようにしていきたいと思いませんか？

アイビーさんのように勉強したいので、
人が世界にはたくさんいて自分たちは勉
強ができる場所があるから
でアイビーさんのことを知ってからは
自分は勉強しようと思っています。

○今日の授業の感想を書きましょう。

しょうの夢をかなえるため、と
く勉強したいと思っています。

本単元の学習は、フィリピンの小学生にインタビューしてきた様子のビデオを見せることから始めた。習慣や生活スタイルの違いはあるものの、自分達の生活と共通点も多いフィリピンの小学生に対して親近感を感じている様子も見られた。本時の学習で児童達は、学校に通うことができなくなってしまったストリートチルドレンが復学に向けて努力している様子から、自分達にもフィリピンの子ども達にも等しく与えられているはずの「学ぶ権利」について考えることができた。

フィリピンのストリートチルドレンと自分達を比較し、環境は異なっているけれども、ともに「学ぶ権利」を有していることに気付いた児童達は、それまで「義務」として感じていた学習が「権利」であることを認識し始めてきている。

○アイビーさんは、なぜ学校にもどろうとしていると思いますか？
アイビーさんの立場になって考えてみよう。

しょうらい自分(先生、医者)をかな
えるため、勉強が楽しいから、夢をかな
えて、親かよいたいを幸せにしたいから。

○アイビーさんのことを知ってこれから自分はどうのようにしてい
たいと思いましたか？

勉強したいと思いました。私たちが
いい国に生まれてきたけど、アイビーさんは、勉強
がとまないくらいの国に生まれて、そ
れでも、アイビーさんは勉強したいと言ったので、
私も勉強したいと思いました。

○今日の授業の感想を書きましょう。

今度からは、もっと勉強にはげみたいと
思いました。アイビーさんにまねか
かえりたいと思います。

○アイビーさんは、なぜ学校にもどろうとしていると思いますか？
アイビーさんの立場になって考えてみよう。

しょう来、先生、医者になるためには勉強をして
たく人知っているとかが多かったから、3年生
にもどってでも勉強をしたいと思ひます。

○アイビーさんのことを知ってこれから自分はどうのようにしてい
たいと思いましたか？

今までは勉強したいと思ひていなが、たけや
かアイビーさんは自分から勉強をするせい
が、たく強くて、勉強がすく好きそうに
していたので、私も勉強をしたいと思ひました。

○今日の授業の感想を書きましょう。

アイビーさんが勉強をかえはらっていたの
で、ぼくも積極的に勉強に取り組
みたいと思ひました。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

・海外のニュース出来事などをテレビで知ることあっても、海外の文化などにはそれほど興味を示さなかつた。

(授業後)

・教科書に載っている海外の様子を写した写真などの目にする、「どこの国かな？」などと関心を示すようになった。
・これまでは外国語活動で取り扱ういくつかの国や、経済的にも優位な主要国しか知らなかつた子ども達だが、最近ではテレビで名前を聞いた国の位置を世界地図で確かめるようになった。

【8】自己評価

1. 苦労した点	自分達とは生活環境が大きく異なるフィリピンのストリートチルドレンに対して、児童がより共感的に考えられるようにするにはどうしたらよいか工夫するのが大変だった。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> 資料の効果を最大限に発揮するための工夫。(より児童に伝わりやすく考えさせやすくなるように) ストリートチルドレンに対して「かわいそう」という気持ちを持つことを否定するのではなく、さらに踏み込むことで「かわいそう」で終わらせないようにする。
3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> 特に情緒障害学級の児童と担任の間で「学ぶ権利」が合い言葉になり、児童達が真剣に学習に取り組もうとする姿が目立つようになった。 他者に対して共感的な気持ちで考えるとともに、自分自身についても振り返り見直そうとする習慣が身に付いてきた。

<p>4. 備考（授業者による自由記述）</p>	<p>海外研修から授業実践に至るまでの間に自分が最も苦しんだのは、フィリピンで見てきたことを教材化する際の視点を決定するところであった。実際にフィリピンを訪れてみて教材化できるものは複数見つかった。しかし、その中から児童の実態や発達段階に合ったものを選び、テーマを1つに絞ることがなかなかできなかった。</p> <p>また、現地での素材集めを十分に行ってきたつもりであったが、実際に教材化しようという段階になると、欲しい場面が見つからなかったり映像の音声の不鮮明であったりという問題に直面した。授業に使う実際の場面を想定して写真やビデオを撮影することができていれば、授業での効果もそれだけ大きくなる。事前に授業のテーマを決めてしまうことは大変難しいことなので、現地で気になった全ての内容は教材化するつもりで資料収集をすることが望ましいと感じた。</p>
--------------------------	--

添付資料：授業で使ったパワーポイント

資料①

学校にきて勉強することを
どのように思いますか？

- ・楽しい 21人
- ・つらいときがたまにある 13人
- ・つらいと思う 6人

資料②

宿題をどう思いますか？

- ・あったほうがいい 21人
- ・もっと少ないほうがいい 13人
- ・ないほうがいい 6人

資料③

みなさんが学校にきて勉強するのは
どうしてだと思いますか？

- ・将来のため／社会にでたときに役立つから。
- ・義務教育だから。(しかたない)

資料④

勉強をする理由が分からない。

国語は日本語がしゃべれればいいし
数学は足し算とひき算ができればいいし
社会はニュースを見てればいいし
理科は使うときがない

資料⑤

入学率 96%

卒業率 68%

資料⑥

ストリートチルドレン



路上で生活する子ども。

資料⑦



資料⑧



資料⑨



資料⑩



参考資料：平成 26 年度教師海外研修報告書